

踏み跡 <My Mountains>

6月の山歩きには勇気が要る。それは雨に祟られる可能性が大きいからだ。しかし、少々高めの上では6月は緑が美しく、残雪のある山であれば豊富な水分を得て植物が元気になり、花も咲き始める。山歩きの楽しみは倍増する可能性がある。初夏の植物鑑賞を夫婦で楽しむ霧ヶ峰日帰り散策を計画した。

平成9年6月22日
梅雨の時期にもかかわらず前夜の天気予報が晴天を予報していた。3時半に起床し、朝食をとらずに4時40分に出発。談合坂SAで朝食と小休止。
朝食の後の心地よい眠気にたまらず、双葉SAで給油後少々仮眠。ちょっと眠ればスッキリとする。



諏訪ICで中央自動車道から下りて池のくるみへ。踊場湿原はレンゲツツジが満開で軽い散策には最適。車山西麓の駐車場に入り、車を止めて登山スタイルに着替え。車山への登り道の両脇、まだ丈の低い笹の間に白や紫の鮮やかな色をしたスマイレ達。車山（1925m）、山頂は人が多い。車で来て歩いて登る人、リフトで上がって来る人、稜線を歩き抜ける人などなど様々な人種が集結している。車山の北斜面を下って車山乗越へ。一本樺の丘を経て南の耳まで行くと段々に静けさが得られるようになってきた。やがて尾根上のいたるところでレンゲツツジの花盛りを見るようになり、足が進まなくなってくる。そこかしこで写真を撮りながら小休止を重ね、北の耳・ゼブラ山・奥霧キャンプ場を経て八島ヶ原湿原へ。レンゲツツジが終わると次は満開のコバイケイソウ、ひとつひとつの花弁までが凜としている絶好の見ごろのコバイケイソウはこれまた格好の被写体となり休憩時間となってしまふ。キンポウゲもスズランも今こそ見頃というような輝きのある花卉で目が離せない草むら。

八島ヶ原湿原の散策の後ひとりで鷲ヶ峰を往復。鷲ヶ峰への登りもまたまたレンゲツツジが満開。時々流れてくるガスに霞むレンゲツツジの色はなかなか情緒がある。鷲ヶ峰（1798.3m）、露岩のある静かな山頂から見下ろす八島ヶ原湿原と点々と輝くようなレンゲツツジの色。ヒュッテ御射山でかみさんと合流して車山の駐車場へ戻った。

以上

